令和5年度やちよ男女共同参画プラン懇話会 会議録

1. 開催日時 令和5年12月20日(水)午後3時から4時40分
2. 場所 八千代台東南公共センター2階会議室
3. 議題 「第2次やちよ男女共同参画プラン」に基づく令和5年度進捗状況(対令和4年度実績)報告について
4. 出席者 (1)やちよ男女共同参画プラン懇話会委員
 - ・力石 洋平 (市民委員)
 - ・武田 美保 (市民委員)
 - ・中田 雅彦 (市民委員)
 - ・周郷 綾 (市民委員)
 - ・平山 ひより (市民委員)
 - ・千代崎 未央 (学識経験者)
 - ・木村 恵子 (学識経験者)
 - ・高橋 英治 (学識経験者)
 - ・山口 充美 (学識経験者)
 - ・鈴木 京子 (学識経験者)(2)事務局
 - ・高宮 修 (企画部長)
 - ・小杉 直子 (男女共同参画センター所長)
 - ・酒井 澄江 (男女共同参画センター主査)
 - ・庄村 優人 (男女共同参画センター主事)
5. 公開又は非公開の別 公開
6. 傍聴者 0名(定員5名)

〈議事録〉

【小杉所長】

それでは改めまして、本日はお忙しい中お集まり頂きまして、誠にありがとうございます。これより令和5年度第1回男女共同参画プラン懇話会を開催いたします。私は、本日の司会進行を務めさせていただきます、男女共同参画センター所長の小杉と申します。よろしくお願いいたします。着座にて、この後は進行させていただきます。本会議につきましては、八千代市審議会等の会議の公開に関する要領に基づき、公開の会議となっておりますけれども、いまだ傍聴の方はお見えではありませんのでこのまま続けさせていただきます。また、会議録を作成させていただくために録音をさせていただきます。皆さんが発言されるときにはマイクの下銀色のボタンを押して発言していただきますようお願いいたします。これより録音を開始いたします。

では、初めに、企画部長の高宮よりご挨拶をさせていただきます。

【高宮企画部長】

改めまして本日は、年末のお忙しい中集まってお集まりいただきましてどうもありがとうございます。

近年は、女性活躍推進法など、男女共同参画推進に係る様々な法律の整備が行われているところでございます。本年6月にはLGBT理解増進法が制定され、来年の4月には女性困難支援法の施行が予定されているところでございます。男女共同参画から多様性理解への取組については一層加速し、より広がりを持っていくものと考えているところでございます。本市におきましては、第2次やちよ男女共同参画プランが今年3年目を迎えております。誰もが活躍でき尊重されるまち八千代を目指し、様々な課題解消に向け、市民の皆様や事業者、関係機関との連携のもと、同プランに掲げられている、37の事業に現在取り組んでいるところでございます。現在、令和7年度からスタートする次期プラン策定に向け、市民アンケートの準備等を進めているところであります。次期プラン策定に向けて、委員の皆様からこれからご意見を伺う機会が増えてくると思いますが、引き続きご協力頂きますよう、この場をお借りいたしましてお願い申し上げます。この後、担当から令和4年度取組内容などを報告させていただきます。皆様、それぞれの立場から、忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。本日はよろしくお願いいたします。

【小杉所長】

それでは委員の改選がございましたので、皆様に簡単に自己紹介をしていただければと思います。力石委員から順に時計回りをお願いしたいと思います。

力石委員お願いいたします。

【力石委員】

力石洋平と申します。3期目になります。職業は土地家屋調査士というものをやっております。事務所は東京の新宿にございます。LGBTの方々とかが周りに多くて、接する機会が多いかなという場所で仕事をしております。子供がまだ学生でおりまして、そういう立場から発言させていただければと思います。よろしくお願いいたします。

【武田委員】

武田美保と申します。今期で5期目になります。中学2年生の女の子の母親です。シングルマザーです。八千代中央駅のすぐ近くでフラワーアレンジメントの教室をやっていて、先ほどチラシを配らせていただいたのですが、1階の商工会議所の前で、今投票箱が設置されていて、やっちブランドセレクションというものに、私が作っている花時計が選ばれていて、八千代市のふるさと納税の返礼品にもなっている商品で、もしよろしければ、皆さん1票を投じていただけると、20名様に関連した商品が当たるそうなので、よろしくお願いいたします。

【中田委員】

3期目を迎えました中田雅彦と申します。私はゆりのき台でPTAとか青少協とか支会関係などに関わってきました。ボランティアの現場ではですね、女性の方々の協力がなければ何もすることは

できません。しかし、日本社会においては、女性の考え方が、なかなか通らないのが現状です。私は聖徳太子の言葉、「和をもって尊しとなす」が人間としての根源だと思っております。今期も皆様の考えを聞いて、本市から日本を変えたいなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【周郷委員】

周郷綾と申します。2期目になります。八千代市の麦丸で梨を作っています。子供が大学3年生と大学1年生、高校3年生の女の子が3人おります。仕事は梨園をやっているのですが、所属としては、千葉県農業士等協会、JA八千代市と、アンシャンテクラブ、道の駅の指定管理事業をさせていただいています。どうぞよろしくお願いいたします。

【平山委員】

今期から委員となりました。早稲田大学政治学研究科ジャーナリズムコースの修士2年、平山ひよりと申します。私は来年の3月から留学に行く予定なので、お会いする機会があまりないかもしれないのですが精いっぱい頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

【千代崎委員】

4期目になります千代崎未央と申します。ここ2、3年、仕事の都合がつかず、ここに来ることができなかったのは、はじめましての方がほとんどだと思います。こちらに元女性・ジェンダー研究所研究員とあるのですが、大学にいるときに、エジプトの女性運動の研究をされていて、これはエジプトのカイロ・アメリカン大学というところの女性センター研究所の研究員だったころのものです。留学から帰ってきた後に、研究しながら東京都の男女共同参画センターであったり、男女平等参画センターで働いた経験も見込んでいただきました。私は八千代市民ではなくて千葉市民です。千葉市でも自分なりの活動をほかの地域の方々としてきたので、そういった点から何か、八千代市に貢献できればなど。実はパートナーが八千代市の出身なので、そういった縁もありまして、東京都の経験もあっていろんなところを比較しながら、センターの職員だった時代はもっとかなり前なのですが、皆様とこの地域のためになることを考えていけたらと思っています。あと、今は中学校と小学校の子供がいます。よろしくお願いいたします。

【木村委員】

木村と申します。よろしくお願いいたします。皆さんしっかりと何期目というご発言をされて立派だなと思うのですが、私ちょっと長過ぎまして、6期目です。現在は人権擁護委員の仕事をしてながら八千代市のほうで子供たちとともに、人権について一緒に勉強しているのが主な仕事になっておりますが、学校現場で39年間一緒に勉強してきましたので、子供たちの人権、地域の人権を考えながら、男女共同参画のほうにも、目を向けて活動していけたらなと思っております。よろしくお願いいたします。

【高橋委員】

初めまして八千代商工会議所の高橋と申します。ふだんは中小企業様のご支援をさせていただいているのですが、女性の方に関しては融資でも利率も違いますし、創業支援とかいろいろと女性の方をうまく雇うっていうのは、国のほうがお金も人も注力しているところがありますので、そういうところで女性をターゲットに社会進出へという動きはすごくあるなというのを肌で感じます。家で言うと、奥さんが1位、2位が犬で、子供がいて、私が今一番底辺なのですが、女性の方が強くてというのはあるのですが、社会的にはやっぱり男性優位なところがあるので、こういう法律があつてうまく平等にしていけないとまだ日本はやっぱり遅れているのかなっていうのは、思いますので、少しずつ女性の発言力とですね、法律も平等にということ、まだまだ男尊女卑が残っている会社さんもあるようですので、ここで勉強とご意見を賜りたいと思います。よろしくお願いいたします。

【山口委員】

4期目になりました山口充美と申します。よろしくお願いいたします。お配りしていただいております表には、八千代市防犯組合連合会会長とご案内頂いておりますが、昨年、6年やりました会長職のバトンを渡しまして、現在、顧問という形で役員となっております。役員ではありますが、

指導員とともに、青色のパトカーに乗ったり、パトロールしたり予防という活動をしています。そしてまた、保護司という職を得ておりますが、こちらのほうも10年経ちました。私は4期目と申しましたが、こちらの懇話会に参加して以来、男性女性という性別というよりも、人間としていかに人を教育していくかということが非常に大事だということを、会議に出るたびに感じております。そういったことも今回も通しまして、皆様とお話合いができればうれしく存じます。よろしくお願ひいたします。

【鈴木委員】

始めまして、八千代市の女性消防団分団長をやらせていただいております鈴木京子と申します。よろしくお願ひいたします。今年の7月から分団長を、名倉さんから代わりまして、やらせていただいております。女性消防団といいましても本部付分団長っていうことになってはいますが、普通の男性の分団とは違ひまして、主に私たちは小学校中学校とかの心肺蘇生法指導とかに回ったりさせていただいております。他にも仕事をもちながらやっておりますので、でもその中でもすごくやりがいを持ちながら、今日もちょっと消防本部で紙芝居とか大型絵本とかを読んできたのですが、子供さんたちの生き生きとした、かわいい笑顔を見ながら、防犯を伝えていけたらいいなということと、心肺蘇生法を少しでも伝えていけたらいいなと思う気持ちでやっております。よろしくお願ひいたします。

【小杉所長】

委員の皆様、自己紹介ありがとうございます。続きまして私から事務局の職員を紹介させていただきます。先ほどご挨拶をさせていただきました企画部長の高宮でございます

【高宮部長】

高宮です。よろしくお願ひいたします。

【小杉所長】

男女共同参画センター主査の酒井でございます。

【酒井主査】

酒井です。よろしくお願ひいたします。

【小杉所長】

同じく庄村でございます。

【庄村主事】

庄村です。よろしくお願ひいたします。

【小杉所長】

最後に私小杉です。本日はよろしくお願ひいたします。

それでは本懇話会ですが、やちよ男女共同参画プラン懇話会設置要領の第5条の規定により、議長は会長が務めることとなっておりますが、本日は今期最初の会議となりますので、会長及び副会長が空席となっております。会長の選任につきましては、仮議長を委員の中から、事務局より指名させていただきまして、議事の進行をしていただきたいと思います。私から山口委員にお願いできますでしょうか。

よろしいですか。それでは、山口委員に仮議長をお願いいたします。

山口委員、議長席へお願ひいたします。

【山口委員】

それでは、会長を選出したいと思います。やちよ男女共同参画プラン懇話会設置要領第4条の規定により、会長及び副会長は、委員の互選によるとされております。会長の選出について皆様ご意見でございますでしょうか。

【中田委員】

はい。

【山口委員】

中田委員。お願ひします。

【中田委員】

私といたしましては、木村委員にぜひ今回もお願いしたいと思っております。木村委員は長年学校現場でご活躍され、数少ない女性校長として、豊富な経験もありますので、今回も私たちをまとめていただきたいと考えておりますがいかがでしょうか。

【山口委員】

中田委員から、木村委員にお願いしたいとのことですが、皆様ご異議ございませんでしょうか。

【委員】

異議なし

【山口委員】

皆様、ご異議ないようですので、木村委員お引受け頂けますでしょうか。

【木村委員】

はい。力不足ですけれども、皆様のご協力を頂きながら努めてまいりたいと思います。よろしくお願ひいたします。

【山口委員】

それでは、会長は木村委員を選任いたします。木村委員、よろしくお願ひいたします。進行を事務局にお返しいたします。

【小杉所長】

山口委員、仮議長ありがとうございます。木村会長は議長席へお願ひいたします。

それではここからの進行につきましては木村会長にお願いしたいと思います。木村会長から委員の皆様へ一言頂いてから進行をよろしくお願ひいたします。

【木村会長】

先ほどご挨拶させていただきましたが、年数は長いですが不慣れですので、皆さんの多大なるご協力を頂きながら努めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは引き続き、副会長の選出をさせていただきます。どなたか、まず立候補ございませんでしょうか。

【中田委員】

推薦をよろしいでしょうか。

【木村会長】

中田委員。

【中田委員】

私はですね、2年前にも、力石洋平さんをお願いしたので、今回もお願いしたらどうかと思っております。力石さんはお子様もいらっしゃると思いますので、家庭での男の役割などの生の声を聞かせていただけたらありがたいと思いますので、副会長をぜひお願いしたいです。皆様どうでしょうか。

【木村会長】

はい、ありがとうございます。中田委員から力石委員にお願いしたいとことで推薦がございましたが皆様いかがでしょうか。ご異議ございませんでしょうか。

【委員】

異議なし。

【木村会長】

異議なしの声を頂きました。それでは副会長は力石委員にお願いしたいと思います。力石委員いかがでしょうか。

【力石委員】

謹んでお受けさせていただきます。

【木村会長】

それではそのままの席で結構ですので、力石副会長一言よろしくお願ひいたします。

【力石副会長】

前回の会議をコロナに感染してしまい出席できず、まず謝らせていただきます。先ほど木村委員のほうが私もあまりと言っておりましたが、私も不慣れで、3期目なのですけれども、本当に自分普通の勤め人です。正直こちらの男女共同参画ってということについても、携わらせていただいたときにようやく本を読み出したような形のところがあります。ただやはりそこからいろいろ意識を出して、自分の家庭の中の状況、周りの状況を改めて見て、気づいたものがありまして、今さらと思うかもしれませんが、そういったことをもとにやはり発言をさせていただきたいと思っています。本当に一般目線でしかありませんがご協力をよろしく申し上げます。

【木村会長】

力石副会長ありがとうございました。今後もよろしくどうぞお願いいたします。

それでは早速議題に入らせていただきます。議題1について、事務局の説明をよろしくお願いたします。

【酒井主査】

それでは、報告書の説明に入ります。

本報告書は、「第2次やちよ男女共同参画プラン」に掲げる取組について、各担当部署に対し、令和4年度の進捗状況を調査した結果をまとめております。

1ページをご覧ください。こちらにプランの体系を記載しております。4つの目標、9の課題、18の施策に分かれており、各施策に対して、計37の事業が設定されております。

続きまして、2ページをお願いいたします。2ページから、具体的な取組の進捗状況を課題ごとに記載しておりますので、順にご説明いたします。

ページ下段をご覧ください。目標1 共に作り出す「誰もが活躍できる環境」の、課題1「女性の活躍推進」では、10事業中、「計画どおり実施」が5事業、「計画の一部を実施」が3事業、未実施が2事業となっております。前年度は「計画どおり実施」が4事業でしたので1事業増えています。

次に3ページの主な事業の実績をご覧ください。

事業番号1「審議会等委員への女性委員登用促進」では、令和5年度末までに登用率40%との目標を掲げており、女性委員の登用を増やすため、千葉県が作成した女性人材リストを活用いただけるよう、庁内に周知を図りました。分野によっては依頼先団体に女性がおらず、登用ができないとの報告もありますが、各所管課に改善方法を提案してもらうとともに、関係部署と連携した取組としていきたいと考えています。

事業番号3「女性の就職支援」では、商工観光課が千葉県や近隣市と連携し、女性向け再就職セミナーを浦安市、習志野市、船橋市を会場に行ったほか、事業番号4「女性の起業支援、ネットワークづくりの機会の提供」では、昨年が市制施行55周年であったこともあり、その記念事業として、また、6月の男女共同参画週間事業として、自分の困りごとから起業し、全国規模で事業展開を行う女性起業家を講師に「地域をつなげた起業ストーリー～幸せのサイクルを生んだ学生服リユース～」を開催しました。講演会には市内の女性起業家も多く参加いただき、情報交換の場ともなりました。

また、事業番号5「ロールモデルの紹介による女性のエンパワーメント」では、ロールモデルとして、さきほどご説明した女性起業家の講演会を行った後、市内の女性起業家と地域づくりに取り組む団体の代表とのパネルディスカッションを行い、参加した女性起業家等が能力を発揮できるよう促すきっかけを提供しました。

事業番号6「女性のための相談の実施」では、約25年行ってきた傾聴中心の相談業務から、相談者自らが解決へつなげていけるよう、対面を取り入れた予約制の「女性サポート相談」にリニューアルし、5月中旬からスタートしました。

課題1では、未実施の事業が2件ございますが、これは「女性の政治分野への参画推進」にかかわる取組で、議会事務局や選挙管理委員会との連携した取組が難しかったためでございます。

次に3ページ下段をご覧ください。

課題2「職場と家庭における男女共同参画」では、6事業中、「計画どおり実施」が5事業、未実施が1事業となっております。前年度は「計画どおり実施」がございませんでしたので、取組が進んでいます。

主な事業の実績としましては、事業番号8「男性の家事・介護参画促進」では、当センターにおいて「男性のための介護基礎講座」を2回の連続講座として、講義だけではなく車いすの扱い方などの体験も取り入れ、実施しました。

次に4ページをご覧ください。

事業番号9「男性の子育て参画推進」ですが、母子保健課では「パパとママの子育て教室」について、コロナ感染拡大防止に努めながら、徐々に回数を増やし、3年度は1回でしたが、4年度は17回の開催となりました。また、当センターでは「パパと子どものふれあい広場」を2回連続講座として開催し、2～3歳の子どもの遊び方を提案したほか、父親同士の交流会を行いました。

課題2の未実施事業1件につきましては、「男性の子育て参画推進」への取組として、子ども支援センターすてっぷ21では、コロナ感染拡大防止のため、保育園職員同士の接触を控えており、予定していた男性保育士による動画配信ができなかったことによるものでございます。

4ページ中段をご覧ください。

目標2 互いに認め合う「個性が尊重されるまち」、課題1「人権の尊重」では、前年度同様、5事業すべて「計画どおり実施」いたしました。

主な事業の実績としましては、事業番号11「職員の意識啓発」では、職員課において、当センター職員を講師として、入所から1～8年程度の職員を対象とした主事研修で「多様な性の理解について」を、新規採用職員研修では「男女共同参画に関する取組」についての講義を行いました。また、研修の際には令和5年3月に策定した市職員向けの「性の多様性を認め合い行動するためのガイドライン」を活用しました。

事業番号12「多様な性への理解促進」では、広報やちよ6月1日号「誰もが自分らしく過ごしていくために」を掲載したほか、市内図書館5館の司書に原稿を依頼し、『図書館司書さんに聞きました！“自分らしさ”や“性の多様性について考えたいときにおススメの本”を発行しました。また、4年度に結成された性的マイノリティと支援者の会「にじいろコンパス」と連携し、市民イベントへの参加やパネル展示を行い、理解促進に努めました。

5ページをご覧ください。

課題2「DVの防止と支援体制の整備」では、6事業すべてが「計画どおり実施」となりました。前年度は4事業でしたので、取組が進んでいます。

主な事業の実績としましては、事業番号15「DVの根絶に向けた啓発事業の実施」では、11月の「女性に対する暴力をなくす運動」期間に合わせ、広報や市ホームページに啓発記事を掲載したほか、主催講座「働く女性のためのイライラモヤモヤとの付き合い方」を開催しました。

事業番号17「相談による支援」では、福祉総合相談課が、DVへの対応として、105件の相談を受け、身の安全の確保や一時保護のための情報提供のほか、問題解決に向かうための関係機関の紹介や制度の情報提供を行いました。

6ページをご覧ください。

目標3『自分らしく生きる「男女共同参画の推進」』において、課題1「性別に基づく固定化した役割の解消」では、前年度同様、5事業すべて「計画どおり実施」いたしました。

事業番号20「図書館との連携」では、中央図書館における「理系に進む女性を応援」をはじめ、大和田図書館「ジェンダーを考える」、緑ヶ丘図書館「仕事も家事も子育ても一緒に」など、図書館各館が設定した男女共同参画に関連したテーマに合わせ、図書展示を行いました。当センターでは、各館の展示に合わせ、啓発資料等を設置し、男女共同参画に向けた啓発を行っております。なお、今年度も同様の取組を行っており、1月末まで、中央図書館で「わたしたちの心を動かした5人の女性」にかかるパネル展示を行っています。

6ページ中段をご覧ください。

課題2「多様な視点を生かした防災対応」では、9事業中、計画どおり実施が5事業、計画の一

部を実施が1事業、未実施が3事業となっております。前年度と比較し、未実施が2事業増えました。

主な事業の実績としましては、事業番号23「防災訓練等における啓発」では、危機管理課が、地域の防災訓練等で、女性の参画の重要性について説明を行いました。また、事業番号27「避難所開設担当職員等への意識啓発」では、当センター職員が、災害発生時等に対応する市職員に対し、避難所における性被害の危険性や男女共同参画視点の避難所運営について講義を行ったほか、各避難所に設置している資料などの説明を行いました。各避難所には性被害防止ポスターや性的マイノリティの困りごとなどが記載された「にじいろ防災ガイド」が設置されています。

未実施の事業につきましては、当センターにおいて、女性消防団と連携した取組を予定しておりましたが、調整が難しく実施には至らなかったためでございます。鈴木委員におかれましては今後、連携した取組を行っていきたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

次に7ページ上段をご覧ください。

課題3「次世代に向けた意識づくり」では、6事業のうち、計画通り実施5事業、計画の一部を実施が1事業となりました。前年度の計画通り実施が3事業でしたので、取組を進めることができました。

主な事業の実績としましては、事業番号28「児童生徒のジェンダー平等の意識づくり」では、指導課において、（そちらにも掲示しております）当センター作成の4コマまんがを、市内小中学校各2校に掲示し、児童生徒及び教職員がジェンダー平等について認識を持つ機会を設定しました。この取組は今年度も同様に取り組んでおります。

事業番号30「個性をのぼす保育の実践」では、保育園の園長会議において、ジェンダー平等に関する資料や配信映像、研修報告等を共有し、子どもの性別にとらわれて無意識に男女の区別をすることがないように、個人の意思を尊重する保育の実践について話し合い、再度、共通理解を図りました。計画の一部を実施については、保健体育課において、思春期保健ネットワーク会議との連携により、中学校10校と義務教育学校に、学校医等が生徒に対し、性に関する講話等を行いました。小学校ではコロナ感染拡大防止の影響から行事の中止や延期などがあったため、実施の見通しが持てない状況でした。今年度は同ネットワーク会議と連携し、「性に関する心とからだの健康教育」を実施しています。

次に8ページをご覧ください。

目標4「みんなで推進する連携した推進体制」、課題1「連携体制の構築」では、前年度は未実施が1事業ございましたが、4事業すべて計画通り実施となりました。主な事業の実績をご覧ください。

事業番号35「市民参加の推進」では、当センターの支援団体「らいてうの会」との共催講座として、国立歴史民俗博物館から講師を招き、江戸時代の遊郭の実像から、ジェンダーの歴史を通して現代社会を考える講演会を行いました。また、同会と連携し、コラム「私たちのこころを動かした5人の女性～婦人参政権にかかわった女性たち」を市ホームページに掲載しました。現在、中央図書館では、「私たちのこころを動かした5人の女性」のパネルと関連本の展示を行っています。

課題2「進行管理の充実」では、1事業ですが、「計画どおり実施」となっております。

主な事業の実績としましては、事業番号37「進捗状況調査の実施と評価」で、令和4年度の取組事業の進行管理を行うほか、庁内会議やプラン懇話会の委員の皆さまの意見等を検討し、事業へ反映させていくものでございます。

具体的な取り組みの進捗状況は以上です。

続きまして、9ページをご覧ください。

「指標の進捗状況」についてご説明いたします。第2次プランでは、5つの目標数値を設定しています。「各指標の進捗状況一覧」をご覧ください。新規指標であるため、2、3、5につきましては令和5年3月末の現況値を設定できず、今年度実施いたします市民意識調査の結果において測ることとなります。指標4については令和元年度に行われた市民意識調査の結果による設定です。

また、指標1については、次の10ページをご覧ください。

審議会等における女性委員・公募委員の登用状況です。毎年度、本進捗状況調査のなかで、審議会等における女性委員及び公募委員の登用状況を把握し、今後の女性委員の登用促進を目指すための働きかけの基礎資料にするとともに、行政における男女共同参画の推進を目指しております。

公募委員の登用率につきましては、公募委員を増やすことが、女性の登用機会を増やすことにもつながることから、登用を推進してまいりました。

令和5年3月末現在、80審議会等のうち、女性委員のいる審議会等の数は72で、前年度より3審議会増え、全審議会に占める割合は90.0%、公募委員のいる審議会等数は35で、前年度より4審議会増え、全審議会に占める割合は43.8%です。

女性委員の割合は、1,020人のうち、332人で全体の32.55%です。

令和5年度末の目標が40%であるため、目標達成については、市民公募担当課と連携を図り、女性委員の登用の促進については、引き続き周知してまいります。以上で、説明を終わります。

【木村委員】

ありがとうございました。

それでは、ただいまの説明について、委員の皆さんから何かございますでしょうか。

内容が盛りだくさんなので、なかなかすぐは出てこないかと思いますが、お気づきの点が何かございましたら。

【力石委員】

基本的なことでは恐縮なのですが、1番最初の千葉県女性人材リストっていうのはどのようなものですか。

【木村会長】

小杉所長。

【小杉所長】

千葉県の男女共同参画課が集約しておりまして、県内または県外の方もいらっしゃるのですが、例えば、講演会の講師をされた方ですとか、大学の教授ですとかをリスト化し、県内の各自治体に、県から周知がありまして、活躍されている女性たちですので、その中から自治体の審議会ですとか、講演会の講師ですとかそういったことに活用いただけないかということで、例年、本市にも、データが来ているものです。それをぜひ女性の審議会委員を増やすためにも活用してもらいたいということで、庁内に、男女共同参画センターから周知しているものになります。以上です。

【木村会長】

ありがとうございます。

他に委員の皆さんからいかがでしょうか。

【山口委員】

去年でしたでしょうか、ある新聞で、この男女共同の推進状況が全国的にいうとかなり低いという記事だったんです。それを読んだときに、八千代市のセンターの皆様非常に年間通して、かなり積極的に広めていこうという努力をされているんだなあというふうに、改めて感じました。ぜひ今後ともですね、まだまだ周知の足りない面はあるのかもしれませんが、県内において八千代市ってすばらしいなと思っています。ぜひこのまま頑張っていただきたいなというふうに思います。

【木村会長】

ありがとうございました。

小杉さん何かございますか。

【小杉所長】

ありがとうございます。やはり男女共同参画というのは、名前がかたいついていうのもありまして、女性の視点を通して、誰もが生きやすくなるための取組だというふうに思っているのですが、なかなか、ご理解いただけないところも、周知も難しいのですが、本当に草の根活動で地道に少しずつやっていくものだと思っているのであらゆる機会を使って、推進していきたいと思っています。ぜひこれからも委員の皆様にもいろんなご意見を頂いて、参考にさせていただければと思います。

す。ありがとうございます。

【木村会長】

ありがとうございました。

女性自身もなかなか積極的に外に出向く気持ちがないところもありますよね、また外に出向けない家庭環境だったり職場環境だったりというのがあると思いますのでその辺を見ながら、女性自らが積極的に手を挙げられる挙げやすい環境づくりっていうのも大事なのかなというふうに感じました。

ほかいかがでしょうか皆さん。

はい、武田委員。

【武田委員】

今紹介していただいた中の3ページ目の、職場と家庭における男女共同参画の中で、私もよく耳にするのですが、今、不登校のお子さんが増え続けていて、クラスに1人とか2人とか普通にいらっしゃるっていうお話を、ちょうどお母さん世代の方がうちの教室に来られるので、お子様と一緒にレッスンに来られたりとかしている方もいらっしゃるんですね。昨日もたまたまそういうお母様とお話をして、やっぱりまだ小学生なので、仕事をやめることを考えなければいけないみたいな、リモートとかで、この2、3年、比較的男性も女性もおうちにいることができるようになってきたんですけども、やっぱり毎日行かないってなると、小さなお子さんを残して働きに行くのはちょっと難しいっていうので、仕事をやめたっていうパターンも何人かいらっしゃるんですけど、ここには小さい赤ちゃんとかのことしか書いてないんですけども、そういう方々も結構いらっしゃるっていう話を聞いたりと、男女参画とは話がずれてしまうんですけども、学校の授業を受けられていない分、通信とかで教育を受けているっていう方が結構いらっしゃるっていうことに対して、市とかからまだ補助がないから結構金銭的に経済的な負担が大きいっていう話も聞いて、誰かそういう活動をしている市議さん知らないって聞かれたりすることもあって、たくさんいろんなことがあるかもしれないんですけども、小さい赤ちゃんとか、介護とかにプラスアルファでそういうことも、あるのかなってちょっと思って、意見させていただきます。

【木村会長】

ありがとうございました。

いわゆる、学校に行けない子供さんたちの受皿が、欲しいっていうことですよね。

今のご意見に対して何か皆さんのほうから、ございませんでしょうか。

中田委員。

【中田委員】

八千代市の場合はすてっぷ21で多少面倒見ているように僕は思っておりますけれど、東京みたいにお金があるところはね結構いろいろ充実していますけど、本市の場合は、あんまり、お金も使えないんで、あとは市でいろいろと考えていただいて、どうしたらいいかを、あと学校は無理ですもんね。学校の先生が行くのはね。小学生で学校に行けない家庭にたまには見に行ったりは難しいですもんね。

【木村会長】

そういう取組をされている学校がほとんどだと思います。

【中田委員】

すいません。僕がPTA会長でそういうことなかったものですから。

【木村会長】

学校や地域によっても違うと思うんですけども。教室の一部を開放したり、そこに先生が交代で詰めて一緒に勉強したりとか、そういう支援はできている学校のほうが多いと思います。

山口委員。

【山口委員】

すいません。今ちょっと学校ということが出たので、これも常々感じていたことなんですけれども、実はここでも、幼児ぐらいからいろいろな課題があるんですけども、それぞれの年代に応じて、

幼児なら幼児，そして学校に入れば，低学年中学年，そういう年齢とともにですね，伝え方を変えながら，大事なことをきちっと本人たちが認識できるように，伝えていくにはやっぱりそういう学校だとか，教育機関というのは大事じゃないかというのは，意見も述べさせていただいたんですが，実は学校現場が今大変だということも耳にしています。それは先生方の数がどうも足りてない。これは，大きな問題だと思うんですね。学校の先生方にぜひ担っていただきたいと思いながらも，先生方が，多様な生徒さんたちに，大事に向き合うためにいろいろと，工夫されている。時間をとったりすることも人数が足りないことで，非常に厳しいことも起きていると。これについて，学校現場とかあるいは，市の職場の中でも，本当に適正な人員配置って行われているのか。そしてそれを審議してくれている場ってあるのかどうか。それをですね，ちょっとお伺いしたいなというふうに思っていたんですけども。

【高宮部長】

小学校中学校につきましては，ご存じのとおり県職になりますので，基本的には県の教育委員会です。学校の先生の時間外労働が増えているという問題について，その適正配置，あるいは増員については協議されているところだとは聞いております。市としては，正規の学校の先生の配置はできないですけども，その補助教員については，市の単独事業としてやっていますので，そういった形で市としてはサポートしているのが現状です。ただ学校の先生の増員とか，配置については，最初に申し上げたとおりですね，県の教育委員会，もっと言えば国で施策を考えていくかということになると思います。あと，今学校の先生の配置の話をしたのですが，その前にちょっと意見がありました，不登校の話をちょっとさせていただくと，確かに近年，不登校の児童，生徒が毎年増えている状況になっております。特にコロナ渦になってからは，増加しているっていうことを聞いております。学校の先生も，先ほど話がありましたけど，特別教室とかを活用して，そこで，リモートじゃないですけども，教室に来るのが難しい生徒については，とにかく学校に来てもらうということが大事なので，そういった場所を用意してやっているって話も聞いております。あとは，最近タブレットを活用していますので，そういった ICT を活用して，自宅で勉強をして，遅れを取り戻すという取組も，並行してやっています。あと不登校の人たちの居場所っていうことに関して言いますと，八千代台にフレンドやちよっていう，施設がありまして，ここ1か所だけになるんですが，一応，今八千代市の中では，不登校とかですねそういった子供たちの受入れ場所という形にはなっていません。まだ八千代台の1か所だけでは，当然全市内をカバーしているとは言い切れませんので，今後ですね，その場所の問題とか，箇所の問題とかっていうのは解決していかなきゃいけないってことは，教育委員会でも，十分課題として認識していると思います。以上です。

【木村会長】

ありがとうございます。

子供たちが学校に行けないっていうのは子供にとってはとても不幸なことだと思うんですけども，突然いけなくなるっていうことではなくてやっぱり，人と関わる力がとっても必要かなっていうのそういう子供たちを見ているときに感じるんですね。学校に行って子供が楽しさを感じるってのは1番は仲間と友達と楽しく遊べるっていうことが第1だと思うんですよ，勉強ができるようになるということよりも，だから小さいときから，人と関わる力をつけてあげられる環境の中で，子育てをしていくってのはとても大事なことなのかなあということをおそらくいつも痛切に感じるんですけども，皆さんいかがでしょうか。

人と関わると友達がいると，勉強が分からなくても嫌なことがあっても，頑張れる頑張る力につながっていくというものを持っているので，人と関わるっていうことはとっても大事なことのかなというふうに本当に感じますね。

いかがでしょうか。

武田委員。

【武田委員】

私たちが小さい頃は親にもし学校行きたくないと言っても，行きなさいって教育だったと思うんですけど，今は，全部多様化というか認めてあげるその行かない意思を認めてあげるって

う、風潮もあるじゃないですか。あとは結構、私たちの頃だとちょっと変わった子っていう感じ、面白い子とか、落ちつきがない子っていう分類だった子が、今、病名っていうか診断がついちゃったりとかして、それを親が認識すると、うちの子はそうだから行けないみたいな感じでっていう、ちょっと、自分たちの学生だった時代と大分変わってきているなっていうのは私も感じてきていて、あとはそのお友達ができればっていう部分も、何で友達をつくらなきゃいけないのって思う子も結構いらっしゃるっていうのを聞いていて、うちの子もコロナで自宅待機だったときに友達作らなきゃいけないのって言ったことがあって、いたほうがいいでしょって私は親だから言ったんですけど、何かトラブルになるし面倒くさいって言った時代があって、今はもう全然楽しく毎日学校に行っていますけど、何かそういうふうに考えてしまう子もいらっしゃるにはいらっしゃるみたいで、その辺は、昔と変わってきているのかなっていうのを感じますね。

【木村会長】

ありがとうございます。

皆さんいかがでしょうか。

子供たちの世界もすごく多様化していて難しい中で子供たちもね、学校でも地域でも生活していると思うんですけども、力石委員いかがですか。

【力石委員】

不登校とかそういうのを考えるときに、高校以上になりますと、通信制とかがかなり拡充されていて、そちらのほうに行くっていう例もかなりもう今メジャーになってきている。そういうところも出てきているので公立もあり私立もあると、そこまで経済負担なく受皿があると思うんですが、おっしゃるとおり義務教育においてはなかなかそういう場っていうのが、確かに費用負担なくとなると難しいのかなっていうのは前から感じておまして、ちょっとすいません、不勉強でフレンド八千代っていうの知らなかったんですけども、こちらっていうのは、やはり義務教育ぐらいの年齢の方が行かれるようなところなんですか。高校生とかも行かれるような。年齢的にそのぐらいなんでしょうか。

【高宮部長】

小学生中学生が対象となっています。適応支援センターというのが正式名称で、通称名がフレンド八千代でして、八千代台北9丁目にある施設になります。

【力石委員】

お子さんのときっていうのは今先生方もおっしゃいましたけども、学校ってその友達をつくったりそういうふうなのをやるのだと、勉強を覚えると二つの大きなものがあるって、勉強を覚えるだけだったら、言ってしまうえばインターネット環境があればできると。ただインターネット環境ってのはどうしても色んなほかの危険なところとかそういうところを併せ持っておりますから、そこをいかにこううまく子供たちが利用しつつ勉強は拡充できるか。どうしてももう1個の友達をつくるっていうところについては、やはりお子さん方個々の考え、状況、性格とかそういうのもあるので、これは一概におっしゃるとおり強制はできない。やはり1人でいたほうがいいこともあるとは思っていますね。だんだんそれ大きくなってって、高校になったら、通信制とかそういうのに入っていくこともできる夜間に入ることもできると。そういうことを考えて柔軟に対応すべきと多いと思うんですが、やっぱそこで自分として考えていくとやっぱりインターネット環境に置かれた、若い子供をどうその自分に危機意識を持たせてうまくその中で勉強も拡充させていくかっていうのが、ちょっとこの場であまり言うとか大きく広げ過ぎちゃいますけど、どうしても考えてしまうかなと。

【木村会長】

ありがとうございます。

そうですね私たちの子供の頃に比べれば、選択肢の幅が全然もう選択肢が違いますからね。そういう意味では子供たちもその社会性含めて、考える力、判断する力、行動する力そういうものをつけていかないといけないということですね。

ほかいかがでしょうか。中田委員。

【中田委員】

子供のときは武田委員と同じように、熱があっても学校行けど、今はね熱があつたら学校行つたらほかの人にうつって大変ですからね、ですから今会長がおっしゃったようにやっぱり子供の考えも大分変わってきて、1番悪いのは皆さん携帯を持ってね、スマホか何かでゲームやっているお子さんが多い、小中学生にありませんけどもっと上になるとね。だからインターネットと携帯が発達した悪い面は、それに頼って何でも検索できちゃいますしね。だから僕らんときはなかったと。みんな自分で図書館に行って本で、調べて勉強したんで、だから大体1回調べると頭には入るんですけど、スマホだとぱっと見て終わっちゃうんで、だから、今のお子さんはいろいろ情報がいっぱいあるんで大変だと思います。それを育てるお母さん、お父さんも大変だと思いますんで、まとめませんが、やっぱり多様性のある子供が多いんで、皆さん大変だと思いますんで、男女参画でどういうふうだね、子供達に教えたほうがいいのか、すいませんもう少し僕も考えたいと思いますんで、よろしくをお願いします。

【木村会長】

ありがとうございます。
周郷委員いかがでしょう。

【周郷委員】

視点を変えて行かせるではなくって、よく何かそういう子たちって自然に触れるといいとかって聞くので、私は農家なので何か視点を変えて、畑仕事してみたらどうかなっていう。私は幾らでも受入れられますし、お預かりすることもしますし、私は友達つくって、農家の友達もできていろんな人とコミュニケーションとってというのが1番楽しくって農業も楽しいと思ってやっているほうなので、今お話を聞いて1人でいたい子もいるっていうのはそうなのかって思ったんですけども、私も何か妊娠したときつわりとかあと、主人と喧嘩したりとかして気分よくないときに、畑に行くと結構気分がすっきりするっていうか、1人で畑仕事しているのは結構好きだったりとかするので、何か環境を思い切って変えてしまうっていうのも一つの手なのかなっていうのをちょっと感じましたね。

【木村会長】

学校現場で職場体験ってやられる学校が今すごく多いんですけど、子供たちお邪魔していますか。

【周郷委員】

何年前ですけど、萱田中学校と大和田中学校と近いところなんですけども、来ていました。ただ農業って人気ないみたいで、ガストとかココスとか、そういうところから漏れた子たちが、畑仕事に来るって感じで、あと大体やんちゃな子、萱田の子はサッカー部の子が多くって、本当にやんちゃな子たちだったんです。畑の中って梨畑って網があるので、出てかないっていうわけじゃないんですけど、男の子ばかりだった。さすがに何か10年ぐらい前だったんで女の子農業にっていうあれがなかったのか、男の子が多かった。男の子十何人とかよく来ていて、楽しかったですね。お昼お弁当をお母さんが作ってきたものを持ってくるので、私は豚汁だけつくって用意してとかって、わちゃわちゃやりながら、力もあるしっていうので、何かやっぱ農業人気がなくなったせいとか声かからなくなっちゃったんで、ココスとか飲食店のほうが賄いが出るらしく、ぜひぜひ何か、今農家の男の子たちも元気っていうか、子供がいる世代増えてきているので、幾らでも多分言っていたら、受入れしている。うちでも受入れますので、よろしくをお願いします

【木村会長】

ありがとうございました。
今職場体験をやられてる学校が多いので、市のほうで職場体験のリスト一覧表でもつくって、この農家さんにはいつでも引受けてくださるみたいな、そういうものをつくって、進めていく傾向にあるかもしれないですね。

【周郷委員】

農業士等協会って今、私よりももっと若い世代がどんどん増えてきていて、別に労働力とは考え

てはいないんですけれども、一緒に何か作業してくれて、ましてや、こっちとしては農業好きになってくれる子が増えたらいいなっていう。食育活動もやっているんですけども、子供たちと触れ合うイコール、農業で楽しいよっていうのを少しずつ浸透させるじゃないですけども、知ってもらえたらいいなっていうのがあるので、ぜひ農業士等協会とかに言っていただけたら、ぜひぜひ協力させていただきます。

【木村会長】

体験してみないと農業のすばらしさとか楽しさって分からないですよ。

【周郷委員】

汚いイメージ、だんだんなくなっていると思うんですけども、今小学校の食育授業とか行っても、感想文って後で送ってきてくれるんですよ。本当この何年かで女の子の名前だと私は思うんですが、あと字も女の子っぽい字で農業をやりたいっていうのが3人ぐらい、それだけでもうれしくて、何か増えればいいなと思って。別に農業って後継ぎがやる時代でももうなくなっていると思うので、やりたい子が継いでもらって、名前が変わるとかそういう問題もあるんでしょうけども、農地が守られていけば、また別口ですけど、農業委員会としてもやっぱり農地が減るよりかはいいのではないかなと思う。何かコラボして一緒にできたらいいなとちょっと思いました。

【木村会長】

はい、ありがとうございます。

思春期に体験することってすごく印象深くって、職場体験に行ったところにも、高校大学あつて就職してその仕事に歩いていって子供たちも結構たくさん見ているので、やっぱりその小中学生の時代、いろんなことを体験することってことをね、子供にとってはやっぱり選択肢が広がっていくので大事なかなというふうに感じております。

はい、どうぞ力石さん。

【力石委員】

一つだけ今の職場体験でお声がかからなくなったことについてちょっと一言だけ。今、お名前挙げられた学校に実は、コロナのせいでそういうのをできないっていうのが言われて、実は今年なんですけど、その学校にいろんな職業の人が呼ばれて、私も行ったんですけど、自分の職業がどういうものかを説明してほしいと。そういうふうな形に今年になっているんですよ。ただ除外されたわけじゃなくて、学校がコロナでそういうふうになっているので、今たまたま来ないだけであつて、多分そういうの収まればお願いされるんじゃないかと思えます。

【木村会長】

今、コロナ禍でいろんなことがね、開催するのが難しくなっていますからね。いろんな男女共同参画の推進も多分、コロナ感染防止の上で展開がね、難しかったところがたくさんあったんじゃないかなと思いますけども、その中でたくさん実践していただいて本当にありがたいことだなというふうに思っております。ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

小杉所長。

【小杉所長】

事前に資料をご手元にも配付させていただいていますけれども、事前に委員の皆様からご意見を頂いておりますので、それに対して、事務局または関係課で回答を作成しておりますので、簡単にご報告させていただければと思います。令和5年度やちよ男女共同参画プラン懇話会委員の皆様からのご意見についてという資料があるかと思うんですけども、こちらについてご説明させていただきたいと思います。初めに質問意見のところから読ませていただいて、それに対して担当課の回答という形でお話しさせていただきます。

まず1番目ですけども、10年間の計画期間が終了し、令和3年度から第2次プランという新たな計画に基づいて、様々な取組を推進頂き、ありがとうございます。また、新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮しながらの教室開催はご苦勞のあったことと思います。それに対して相談の結果、必要に応じて関係機関につなげている支援すばらしいと思います。今後継続した相談活動をよ

ろしくお願いいたしますというご意見を頂きました。

これに対して、参画センターで考えていることといたしましては相談業務に関わることで、先ほども酒井からも説明させていただいているんですけれども、女性のための相談業務ということにつきましては平成9年から25年間、傾聴を中心とした女性心の悩み電話相談を行ってまいりました。令和4年度からは、より具体的な解決へと導いていくために、カウンセラーの資格を有する女性の専門相談員に来ていただいています、女性サポート相談というものにリニューアルして、令和5年度も継続して行っております。第1から第4水曜日の10時から3時まで、1日4枠ですけれども、相談者が自ら問題を解決していけるように支援する中で、より具体的な解決方法に結びつけていくために関係機関につなぐケースが出てきております。例えば、深刻なDVを受けている方からのご相談があって、それを関係課につなぐことができたケースもありました。今後も相談員と調整しながらその相談者の方に合った対応をしていきたいと考えております。

2番目になります。今度はジェンダー平等の関係ですけれども、ジェンダー平等の意識は低年齢から行うことが効果的だと思います。そのように考えると保育園幼稚園からの教育を望みます。また、効果を上げていくためには教職員研修の充実が求められます。学校人権教育主任の意識啓発を図る研修の充実とともに、主任の研修による校内においての実践と効果の報告会が必要かと思えますというご意見またご要望を頂いております。

これに対しましては、教育委員会の指導課と子ども部の子ども保育課に回答をお願いいたしました。指導課からは、年2回実施の学校人権教育研修会において、学校人権教育に関わる本市の取組、例えば、男女共同参画センターの4コマ漫画ですとか、性の多様性を認め合い行動するためのガイドラインの紹介をしていただいたり、また各校における学校人権教育の取組や次年度の課題等を共有したりするなど、人権意識の啓発を図る研修を工夫しております。また、各校においては、夏の校内研修等を活用し、教職員の人権意識の向上に努めておりますという回答を頂きました。

子ども保育課からですけれども、保育園における保育園児に対するジェンダー平等の取組については、毎年園長会議が開かれておまして、その中で、ジェンダーにとらわれない保育の実践ということで資料を持ち寄り、それぞれ受講した研修や書物をもとに話し合い、現場で取り組む方針を決めているとのことでした。例で何点か挙げていただいているんですけれども、並ぶグループ分け順番等の場面では、性別の区別をしないですとか、色の選定で、男の子は青、女の子はピンクといった決めつけることはなく子供たちに選ばせるといったことの方針を決めて取り組んで頂いているようです。ただ、保育士に対する子供への関わり方が中心で子供に対する直接の取組は行われていないというふうに子ども保育課からは聞いております。ですので、次期プランの中では保育園と連携した、子供たちへの働きかけというのにも検討していく必要があるかなというふうにセンターでは思っております。

続きまして3番です。次世代に向けた意識づくりということで、4コマ漫画を市内全小中学校にということでご意見頂きました。現在、市内小中、義務教育学校4校、小学校2校・中学校2校に、4コマ漫画を巡回掲示しているようですけれども、市内全小学校に配布されてはいかがでしょうか。また配布に当たっては小中合同の校長会議の席上で依頼する必要がありますが、大変効果的ですというご意見を頂きました。例として、人権教育の場面で、校長会議の席上で依頼して、継続した取組がされているというアドバイスも頂いております。

こちらにつきましては、ナイスさんかくというオリジナルキャラクターを、こちらがナイスさんかくですけれども、当センターではつくっておまして、これを活用して、4コマ漫画をつくっております。こちらは、市民意識調査の結果を分かりやすく解説したものになっております。これを小中各2校、今年度も行っているのですが、この展示に当たっては教育委員会指導課と調整しておまして、小中学校在学中に1回、漫画を読んだり、また考えたりする場を提供することを目的に取り組んでおります。実際の展示は、各学校担当者とセンターの職員で話をしながら進めています。全校配布ですとか、また校長会での依頼など、4コマ漫画を活用した今後の取組は、また指導課とも協議しながら進めていきたいと思っております。

続きまして4番です。女性の政治分野への参画推進ということで、中立性という観点から取組が

難しい分野であることは理解できますが、日本の男女平等が最も達成されていない分野であることを考えると幅広い世代特に若い世代に政治に関心を持ってもらえる企画が必要だと思いますという、ご意見を頂きました。

こちらにつきましては、男女共同参画センターのほうで令和3年度に若い世代に、議員、ということが身近な仕事としてとらえてもらえるように、女性市議会議員の方にご協力頂きまして、やちよぺあフォーヤング、教えて女性の市議会議員さんを発行しております。こちらはホームページ等にも掲載しました。その後も女性の政治分野への参画推進について、他市の状況なども確認しながら、企画を模索はしてきたんですけれども、今のところ実施には至っておりません。引き続き検討していきたいと思っております。ただ、次年度なんですけれども、市議会を女性の方たちに身近に感じてもらえるような講座を開催できないかということで、今、取組を考えているところではあります。

続きまして5番です。こちらにつきましてはプランの実施報告書ではなく、状況調査、女性委員登用率未達成に関する状況調査一覧というものに対してのご意見を頂きました。現在の状況と今後女性委員登用率を上げるための詳細な改善策を細かく分析されており、非常に分かりやすいと感じました。また、改善策Cの市民公募委員の選考の際は、女性委員割合の目標値を踏まえ、女性を優先する旨を選考基準に入れることについて、アファーマティブアクション、積極的差別是正措置を実施することになると考えられます。アファーマティブアクションは重要な問題ではありますが、弊害として逆差別を産んでしまう可能性もあります。よって逆差別にならないよう意識しながら女性委員登用率を上げることを目指していくべきであると思いましたがというご意見を頂きました。

これに対して参画センターでは、男女共同参画という考え方が浸透してきたこともありまして、各審議会所管課も女性の意見を登用する必要性を感じていただいております。ただし、依頼団体先に女性がいないといったことで、達成が難しい状況にあります。一方で積極的な女性登用がやはり逆差別になるというご意見も常にありまして、改善策Cを取り入れた場合としても実際の選考の際は審議会の目的がきちんと達成できるのかということも、その視点で女性候補者がいるかどうか踏まえながら考慮していただけるように、所管課のほうには働きかけを行っていきたく思っております。

続きまして3ページ6番になるんですけれども、男女共同参画センターの事業はとても良いです。しかしながら災害時に関しては、今まで女性の意見を取り入れているとは思いません。これからもっと女性の意見を取り入れるべきである。また、市レベルでは難しいですが、日本は女性の管理職や議員に対し世界的に低位置にある現状を打開するためには、欧州での成功を挙げた手法を参考にし、まず、国会議員や都道府県議員の最低40%は女性に関する法案の成立がなければ、いつまでも低位置から上昇は困難であると考えられます。八千代市が市職、市議会議員、そして市内企業に対して、女性登用40%達成を実現し、国内の先達になることを私は望みますという、ご意見ご要望を頂いております。

こちらに関しましては、災害時の避難所等での男女共同参画を進めるために、危機管理課と連携しまして、6年2月に、チラシでお配りさせていただいたんですけれども、女性向けの防災講座を予定しております。各分野における女性登用に関しましては、市職員については職員課が女性活躍プランを策定しております。女性管理職登用拡大を視野に、まずは採用における女性の割合増に取り組んでいます。また、当センターが昨年度行った商工会議所会員を対象とした事業所調査でも、平成30年度調査の結果と比較しまして、女性登用に関する意識の変化が見られたと思っております。市議会議員に関しましてはまず、幅広い世代の女性に議会を身近に感じてもらえるよう、先ほども説明させていただきましたけれども、関係機関と連携した、取組を進めていきたいと思っております。

続きまして7番です。図書館やサイト、やちよぺあでの取組について、男女共同参画を様々な側面から分かりやすく伝える工夫がされていると思いますこうした取組は、成果がすぐに見えづらいですが、大切だと思います。また、サイトの閲覧回数はどのくらいでしょうか。もし少ないなら若い世代向けがこうしたサイトを見る、知る、アクセスするための工夫が必要かもしれませんという

ご意見を頂いております。

まず、男女共同参画の啓発につきましては、継続した取組が必要だと考えております。広報やホームページだけではなく、関係部署と連携した取組、また、地域情報誌、例えば地域新聞ですとか、八千代台の情報誌リアッタにも参画センターは掲載させていただいておりますので、そういったものも活用しながら引き続き分かりやすく伝えていけるよう工夫していきたいと考えております。

また、サイトの閲覧数ですけれども、広報広聴課が毎月、ホームページ閲覧ファイルダウンロード数を報告しております。令和5年11月1日から11月30日のダウンロード数を調べたところ、ごみの出し方ですとか、コロナ関連のものは1万件を超えるアクセスがあったんですけれども、その中で、上位500件が一覧になっていて、5件、参画センターが入っていました。まず1番多かったのが性のあり方はグラデーションで454件です。次いで、コラム私たちの心を動かした5人の女性に関わるもので329件でした。順位的には、グラデーションが194位でコラムは268位なので、それほど高いとは言えないですけれども、毎月、男女共同参画に関するホームページのアクセスは500位の中に入っているの、トピックスなどの見やすいところになるべく上げるようにしているので、アクセスして下さる方もいらっしゃるのかなと思っております。

続いて8番、いろいろ男女共同参画の活動を見させていただきました。なかなか私個人としても参加できていないのですが、女性の消防団の団員が女性起業家の話を聞いたそうで、頑張っている女性たちに元気をもらったし、自分も何かできないかと言っていました。私の周りには自分の子育てが終わり、ボランティアや子育ての手伝い、子供食堂などをやってみたい、やれることはあるのかと思う方々がたくさんいます。でも、個人的にはどうしたらいいのか分からないというのが本当のところなんです。そういう方々への声かけ協力があるともっともっとよいことになるのではと思っております。実際、何から始めたらいいのか一緒に考えていきたいです。よろしく願いますというご意見を頂きました。

こちらに関しましては、第2次やちよ男女共同参画プランに基づいて女性が様々な場面で生き生きと活動できるように、関係機関と連携して、講演会、または講座等を通じて情報提供をしていきたいと思っておりますので、また、委員の皆様からもご意見頂ければと思います。以上になります。

【木村会長】

はい、ありがとうございます。

何かご意見ございますでしょうか。

本日の議題は以上となりますが、その他事務局のほうから何かございますか。

【酒井主査】

はい、それでは私のほうから、資料の中にこちらの男女共同参画社会の形成に向けての事業所調査報告書というのがあるかと思います。こちらにつきましてご報告させていただきます。本調査は、男女共同参画社会の形成に向けた施策を推進するための基礎資料とするため、約5年に1度の周期で調査を行っております。実施に当たりましては、八千代商工会議所にご協力を頂きまして、商工会議所の会員である、八千代市内の約1,700の事業所を対象に、雇用環境のほか、ワークライフバランス、女性の活躍推進に関する取組についてご回答頂きまして、報告書としてまとめたものでございます。こちらのほうも、もしお時間があるときに目を通していただけたらと思います。

【木村会長】

ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。はい、小杉所長。

【小杉所長】

続きまして、性の多様性を認め合い行動するためのガイドラインについて、ご報告させていただきます。こちらにつきましては、市職員向けに作成したものですけれども、市民サービス等の向上を図り誰もが働きやすい職場とするために、職員1人一人が多様な性を正しく理解し、相手の意向

に沿った柔軟な対応ができるように策定したのになります。令和5年3月に策定しております。主な内容といたしましては多様な性に関する基礎知識ですとか、また、窓口や職場学校などでの対応に関する留意点、相談窓口等を掲載しております。策定に当たっては教育委員会ですとか関係機関とも調整しておりますので、学校において先ほど、ジェンダーの話とかもございましたけれども活用していただけるように再三お願いはしております。また、市民の皆さんへ活用頂けるようにホームページにも掲載しておりますし、職員課が行う、若手職員を対象とした男女共同参画ですとか性の多様性に関する研修の際にも継続して活用していきたいと思っております。こちらもお時間があるときに、ご一読頂ければというふうに思います。

また、続きまして、よろしいでしょうか。

【木村会長】

はい。

【小杉所長】

習志野市さんの参考事例ですけれども、チラシを入れさせていただいております。パートナーシップ制度というものですけれども、こちら、ご存じの委員さんもいらっしゃると思うんですが、本市でもパートナーシップ制度の導入を検討しております。こちらについて説明させていただきます。パートナーシップ制度というのは法的に結婚を認められていない同性のカップルを自治体が独自にパートナーとして認める制度になります。また、そのパートナーとして認められたカップルと同居する子供たち、またケースによっては、親世代の方を家族として認めるファミリーシップ制度というのを導入している自治体も多くあります。民間サイトの調べですけれども、導入している自治体が令和5年4月現在で278自治体、東京都等は都として導入していますので、全国の人口カバー率としては約68.4%となっております。県内は千葉市、市川市、船橋市、松戸市、浦安市、習志野市、柏市、木更津市の8市がこの制度を導入しています。このうち浦安市と木更津市を除く、6市がパートナーシップ制度の利用者がお引越越し転入転出する際に、いろいろな書類等を出さなくてはならないんですけれどもこういったものを簡略化できる、都市間協定というものを令和5年7月に締結して、新聞報道等もされています。本市では、令和5年4月に県域で活動するLGBTQの団体レインボー千葉の会から、市長に、同制度パートナーシップ制度等の導入について要望も出されました。第2次やちよ男女共同参画プランでは、多様な性の理解促進を政策の一つとして掲げています。パートナーシップ制度については、誰もが尊重され、自分らしく過ごしていくための社会づくりに向けた多様な生き方を選択できる環境づくりの一助となるものというふうに考え、パートナーシップ制度等の導入に向け、先ほどの導入自治体先進市の制度内容等を調査研究して、導入に向けた検討をしているところでございます。内容的には、この習志野市さんのものが必ずしも八千代市と合致するわけではないですけれども、参考にチラシを置かせていただきました。以上です。

【木村会長】

はい、ありがとうございます。

それではほかにございませんでしょうか。

はい、山口委員。

【山口委員】

すいません、ちょっと防犯関係から、ということで、性に関するというようなところも、今回、まとめてあるかなというふうに思うんですけれども、やはり早い方は小学校からスマホ、手にしている所有しているというところで、親が気がつかないところですね、やはり、加害者になったり被害者になったりというケースが、出てきております。そして、関心のある、女生徒に向けて、裸の写真を送ってほしいとか。そういうやりとりで、安易に、送ってしまった。というようなケースもあるようですので、県内、市内におきましても、やはり何らかの形で、その辺のこともちょっとこう入れられるところがあればというふうに思ったんですが、もし無理でも、ここにいらっしゃる委員の皆様のご家庭の中でもですね、注意をしていただけるとよろしいなあと、呼びかけもしていただけるとよろしいなと思っておりますので、お知らせいたします。

【木村会長】

はい、ありがとうございます。

ほかにございませんか。

はいどうぞ。

【千代崎委員】

この習志野市のパートナーシップの条例を上げていただいたんですけど、説明で同性同士のカップルって言ったんですけど、千葉市含めて同姓に限ってないと思うんですね。異性同士の婚姻関係においても、戸籍によらないものを求める人も含まれていると思うので、ちょっとそこは訂正かなと思うので、お伝えさせていただきます。

【木村会長】

はい。

【小杉所長】

今、千代崎委員から頂いたように、同性のカップルだけではなくて事実婚の方も対象とした内容で検討しております。

【木村会長】

はい、ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

長時間に渡りまして、それでは最後に、高宮部長さんから一言頂いて閉会いたしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【高宮部長】

今日は長い時間ありがとうございました。会議の中でいろいろな皆さんのご意見頂いた中で、今回は結構、子供の関係のことが出ていました。女性進出のために、例えばこのような審議会の女性の割合ですとか、あとは議員の女性の割合ですとか、まだまだ日本は低い状況にあります。そういったものを増やしていくために、根底に何があるのかなっていうことも考えていかなきゃいけないなと思っていますので、今日頂いたようなことも当然、大切な視点だと思っています。そういったこと一つ一つ、地道に取り組んでいって、女性の指数を高めていきたいというのはありますので、これからも皆さんの貴重なご意見を頂ければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【木村会長】

ありがとうございました。

長い時間になってしまいましたけれども、これをもちまして令和5年度やちよ男女共同参画プラン懇話会を閉会とさせていただきます。間もなく新しい年がやってくるので皆さん気忙しい時期を送られているんじゃないかと思っておりますけれども、体調管理に気をつけてどうぞよいお年をお迎えくださいませ。今日はお疲れさまでした。ありがとうございました。

【小杉所長】

木村会長ありがとうございました。

委員の皆様も長時間の会議、ありがとうございました。

今後は次期プランの策定に向けて準備を進めていきますので、委員の皆様にご意見を頂く機会も多くなるかと思っておりますけれども引き続きよろしく願いいたします。本当に今日はありがとうございました。お忘れ物がないようお帰りください。ありがとうございました。